課題解決演習
最終発表

S22006G 藤本歩生
S22036N 黒木蘭
S22079S 米原真奈

グループ名：夏野菜

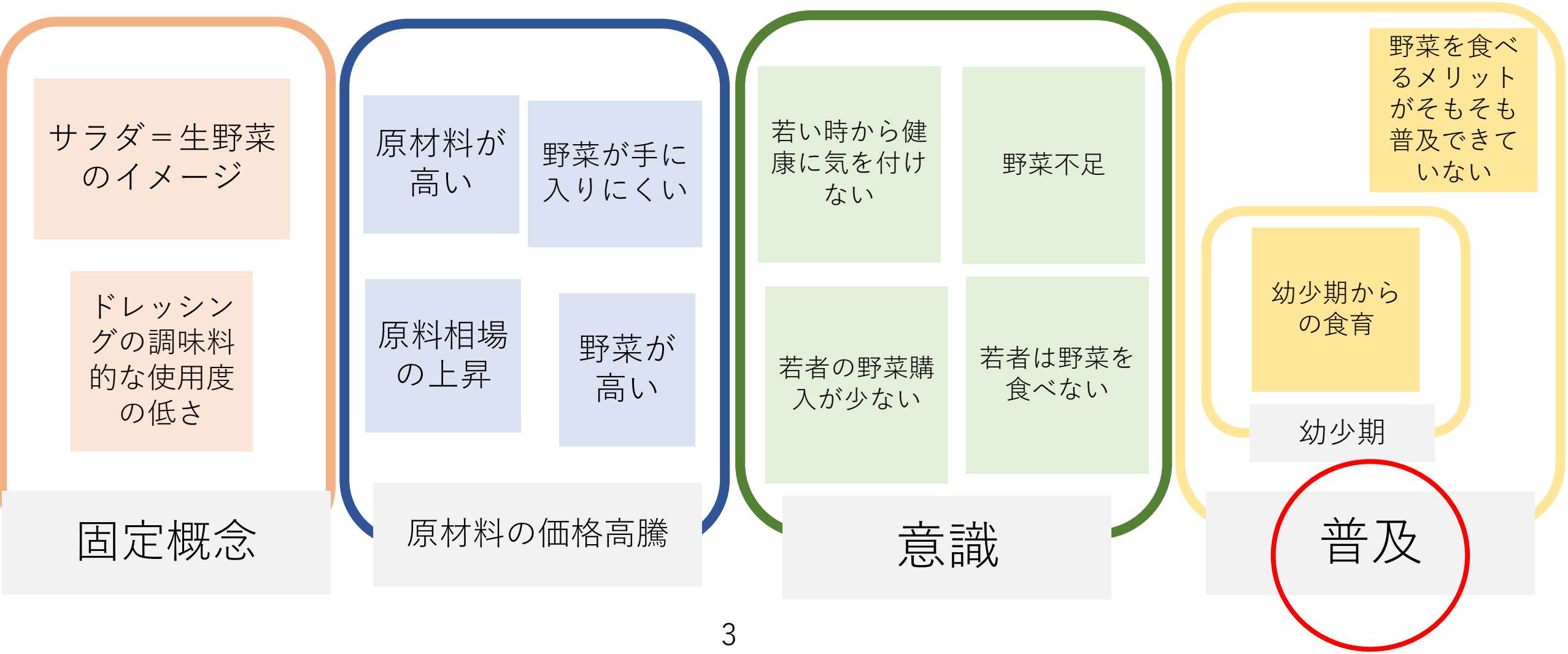
１．取り組みテーマ（プロジェクトの対象）

提案クライアントキユーピー株式会社様から提示されたテーマは，つぎの通りです。

テーマ：サラダで日本を元気にする

サブテーマ：若者世代が，未病状態から離れて，
食べ方の違いで病気になりにくい状態を作るには

2．親和図


サラダ＝生野菜のイメージ
ドレッシングの調味料的な使用度の低さ
固定概念
原材料が高い
野菜が手に入りにくい
原料相場の上昇
野菜が高い
原材料の価格高騰
若い時から健康に気を付けない
野菜不足
若者の野菜購入が少ない
若者は野菜を食べない
意識
野菜を食べるメリットがそもそも普及できていない
幼少期からの食育
幼少期
普及

３．フィールドワーク１：キユーピー様の広報方法についてインタビュー

□お話を伺った方：キユーピー株式会社
　　広報グループコミュニケーション室 社会食育チーム　上田さん
　　広報グループコミュニケーション室 メディアコミュニケーションチーム　森田さん

内容：現在のキユーピー様の広報活動で気をつけていること
　　現在の食育について考えること

【わかったこと】

□現在の広報

・ターゲットとなる層を決め、そこに対してどのような広報をすれば自分たちが相手に伝えたい内容が一番わかりやすく伝えることができるのか考える

・雑誌,料理のトレンド,ウェブ記事などから情報を得る

□現在の食育

・今と昔の食育にあまり違いはないが食に対する価値観は変わっている
・中、高、大学生に対する食育は難しい

フィールドワーク２：学校外で食育をしている人にインタビュー

□お話を伺った方：広島女学院大学食育サークル
　　学生さん、顧問教員

内容：食育サークルさんが行っている食育活動について
　　食についての意識

【わかったこと】

□食育活動として実際にやっていること

・学食でのベジフルランチの提供→ポイント制にすることによって購買意欲を上げる→野菜を食べる機会を増やす
・子ども食堂へ伺い子供たちと共食する
・給食を生きた教材として扱い、地場産物を使用した食育を行う

□食(野菜)への意識についての考え方

・食を勉強することは食へ興味を持つことにつながる
・幼少期や昔に経験した食へのイメージは定着しやすい

4. 問題について分類した親和図　～　問題の整理

食育

給食室の増加

幼少期

家庭科教諭・授業の減少

食生活に興味を持つきっかけ

食育+広報

中高大学生への食育が難しい

食育の難点

食育

食べたいときに食べる

価値観の違い

広報

どうすれば効果的に伝わるか

ターゲットを決めて焦点を当てる

ターゲットが考える価値

ターゲットの価値・興味

5.フィールドワークをしてみて…

特に広報に対して問題点が見いだせない、むしろ的確な方法で広報活動をされている

⇩

食育の中に本質的な問題点があるのではないか

「小学生への食育に対して
中・高・大学生への食育は難しい」

キユーピーさん
食育サークルの皆さん

そもそもなんで中・高・大学生に対しての食育は
難しいの？？

6.食育の難点

□(特に大学生)時間割が決まっておらず食育をする機会がそもそも取れない

食育をする機会（

・教育方針の変更や教員不足

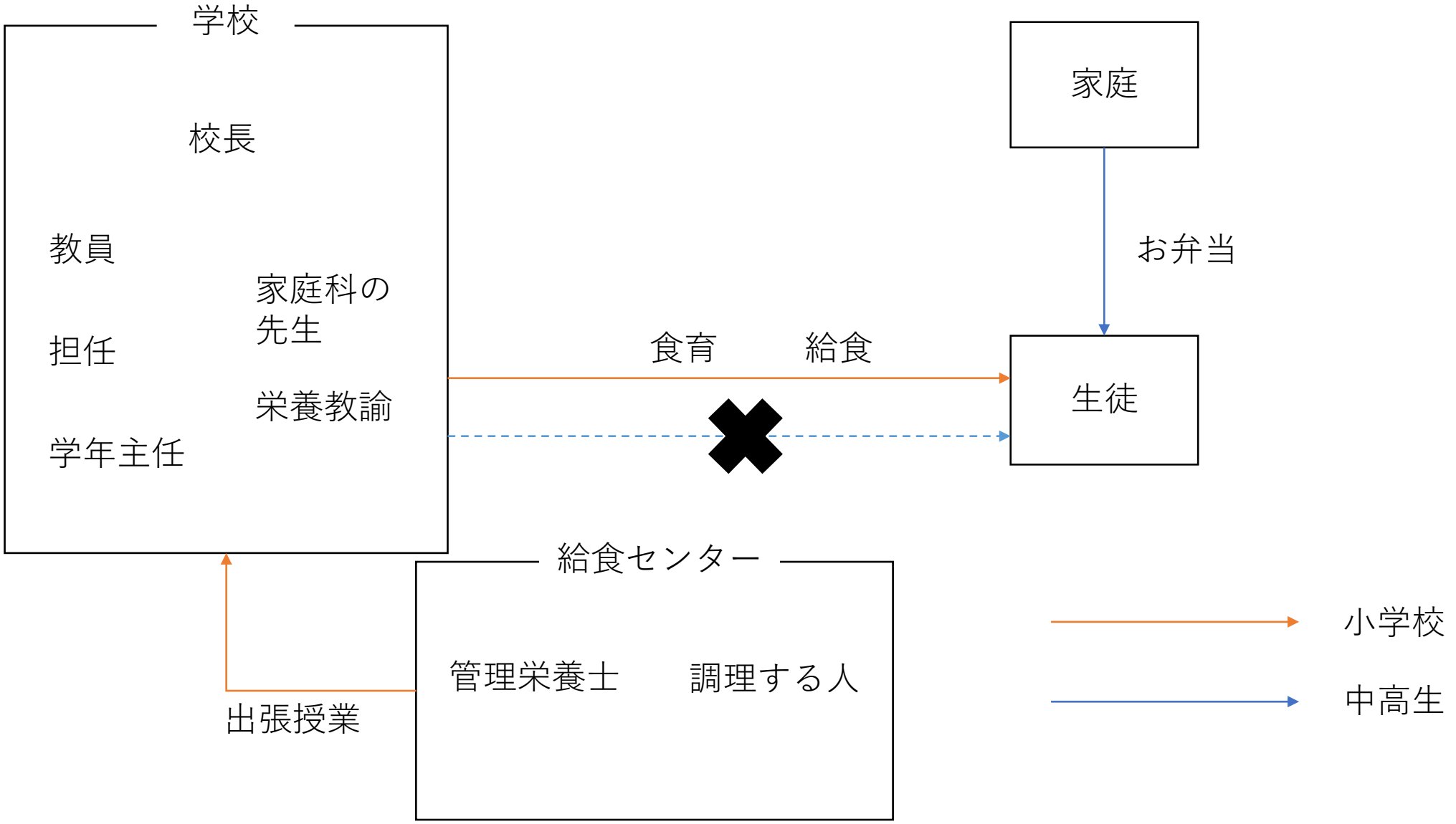
・『給食』という食育を行えるチャンスとなる場面が減少している

⇩

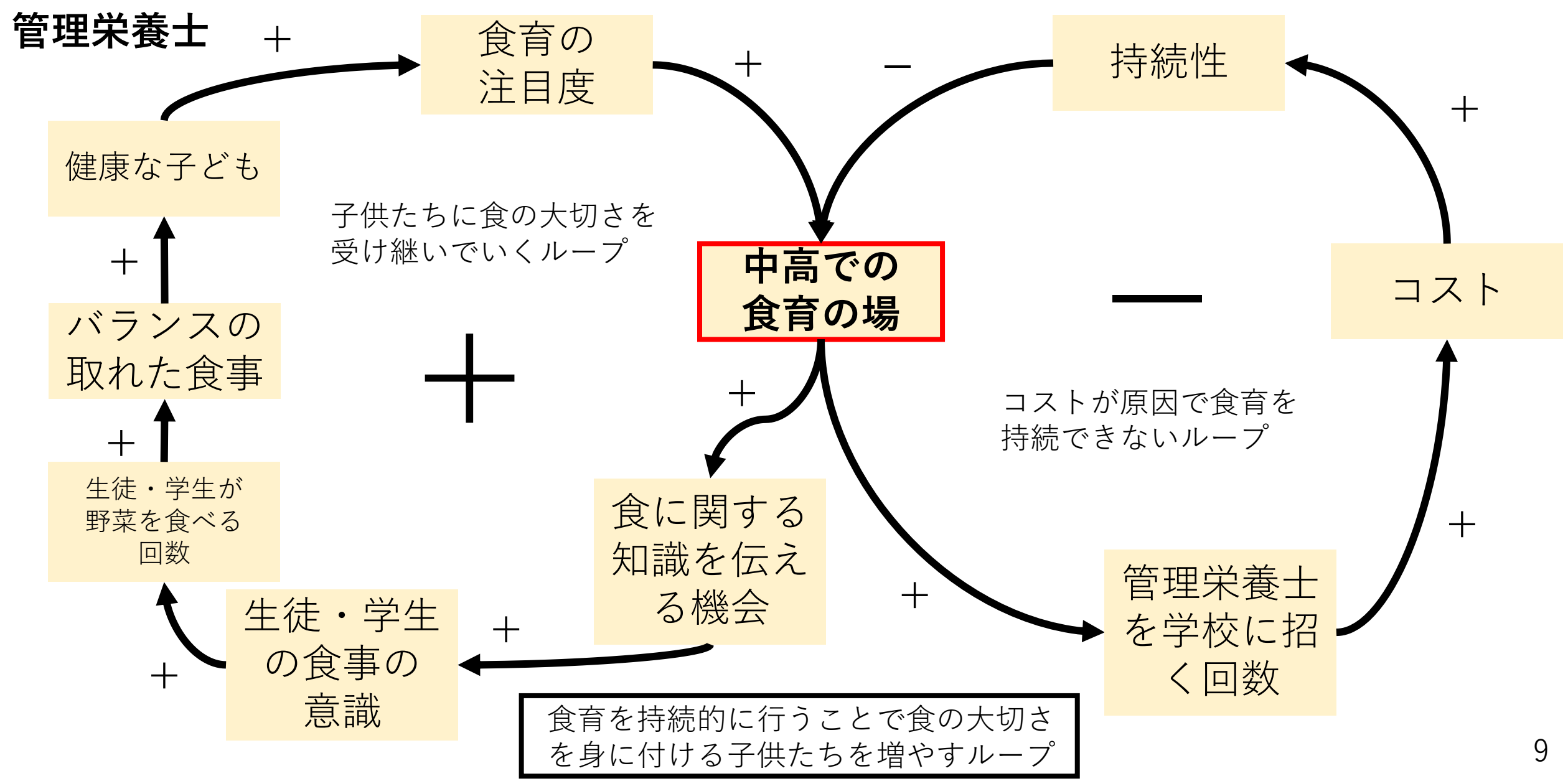
広報の問題点→食育の問題点へ

7．問題の領域に関する俯瞰図（例：ステークホルダー図，ある人の行動）

選んだ問題：中高生への食育の難点



8. 問題の領域を構造化した因果ループ図／特定した課題（レバレッジポイント）



9. 特定した課題：レバレッジ・ポイントから考える

特定した課題（レバレッジ・ポイント）	中高での食育の場 ・中高生への食育が普及されていない
この課題（レバレッジ・ポイント）を選んだ背景	**～選んだ理由～** •現在の学校での食育は小学校まで •食育をできる最後のチャンス •体の成長に応じて食の意識を変える必要がある •食を勉強することは食に興味を持つことに繋がる •お弁当になったタイミングで食への意識の差を埋める

10.特定した課題（レバレッジ・ポイント）に介入することを仮定する

～現状・課題～

- 食への意識に差がある
- 団体や会社などの組織は中高生に対して食育をあまり行っていない
- 教育方針の変更
- 家庭科の教師の減少
- 食育の重要度が学校側に認知されていない

～変化～

- 中高生が食の大切さを知る
- 健康になる
- 1人暮らしをするようになっても食生活を気にする
- 自分の子どもに食の大切さを伝えることができる